

鹿児島大学病院

研修医 石戸 秀明 2016年7月

鹿児島大学病院初期臨床研修2年目の石戸秀明と申します。平成28年7月から一ヶ月間にわたり出水総合医療センターを中心に出水地域の関連施設にて地域医療研修を行いました。

研修医1年目は奄美大島にある県立大島病院で研修したこともあり、地域医療研修は離島医療よりも過疎地域における医療の在り方を学びたいと思い魅力的な研修プログラムのある当院を選択しました。

鹿児島大学出身ですが、出水市に滞在したことはなく不安もありました。が充実した研修を行うことができましたのでここに報告します。

7月は例年よりも梅雨明けが遅く記録的な豪雨となりました。鹿児島市内から長い山道を運転し宿舎へ辿り着くのも一苦労だったのを思い出します。野田診療所では内村先生の熱い指導のもと初めて大腸内視鏡をしましたが進行大腸癌を発見するという貴重な経験をしました。内村先生はもともと循環器内科の先生でおられるようですが、町民の皆様が健康で暮らせるよう腹部エコーや内視鏡検査も積極的にを行い早期発見に努めておられる姿にかかりつけ医の役割を学びました。

高尾野診療所では西元寺先生、長谷川先生のご指導のもと午前中は外来診療をしました。慢性疾患を抱えておられる高齢の方が多かったように思いますが、自転車転倒などの外傷の方も多く地域の診療所は外科内科領域を問わず初期診療にあたる能力が必要であることを学びました。

上場診療所では特別な検査は行えないからこそ問診、身体診察、バイタル測定が重要であり、医療の原点を見つめなおすきっかけとなりました。

出水保健センターでは3歳児健診を見学しました。一見、健常に発育しているお子さんの中から発達障害などを早期に拾い上げ適切な支援につなげていくことは重要だと思いました。

総合内科では吉井先生の御指導のもと外来診察や救急外来の初期診療に携わらせていただき、手術室でペースメーカーの電池交換の介助もしました。適切な診断には“VINDICATE”に沿って鑑別診断を挙げる訓練を教わりました。今後、診療に当たる際に活用しトレーニングを重ねたいと思います。

夜間一次救急では夏かぜが多かったように思いますが、出水地域においても救急医療が一次、二次と分かれていることは出水地域の医師の負担軽減に重要ではないかと感じました。

最後になりましたが、出水総合医療センター、野田診療所、高尾野診療所をはじめ、出水地域における地域医療研修に携わっていただきました多くの方々に心よりお礼を申し上げます。1カ月という短い期間ではございましたが、大変に充実した研修を行うことが出来ました。ありがとうございました。